

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 羅臼町立羅臼小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒086-1833

目梨郡羅臼町本町4-1

E-mail rashou@cocoa.odn.ne.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 69名 女子 69名 合計 138名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

### ①本校のESD特徴

「時代の変化に適應できるように、個性を磨きながら人間性を豊かにして児童を育てる」をテーマに本校は教育活動を実践している。

その課題達成のために主として「総合的な学習の時間」において「知床学」を位置づけ、児童が地域の自然や環境に関心を持ち、主体的な追究活動を通してよりよく問題を解決する資質や能力を育てていきたい。そして、学びを通して、地域の誇りや課題といった、リアルなふるさと「羅臼」の姿を捉えていけるようにしたい。

### ②活動事例

#### A. 熊学習

ふるさと羅臼では、クマを巡ってどのような問題が起きてきたのか。また、現在どのような課題があるのか。ヒグマとの付き合い方や出会ったときにどうふるまえばよいのか…。人とクマの暮らしが隣り合わせという羅臼町の現状を、知床財団に協力いただき、写真や映像、模型などを活用しながら学んでいった。触れる/考える/知るといった学習活動を3年生時と5年生時に発達段階に応じた総合的なプログラムで展開している。



## B. 羅臼昆布学習

「羅臼昆布はなぜ価値が高く値段も高いのか？」を、単元を貫く中心課題として学習を展開した。昆布の長さや大きさを模型で体感し、食べてみる



触れてみることから課題を追究していった。羅臼漁協組合に協力いただき、昆布漁師である井田さんをゲストティーチャーに迎えた。本物に触れる貴重な体験と長年漁に携わってきた最前線の声

聞くことができた。

## C. 外来種学習（ハチ学習）

セイヨウオオマルハナバチについて、その見分け方や特徴などを、金澤主幹をゲストティーチャーに迎えて学んでいった。外来種の侵入（過去）とこれからどう付き合っていくか（未来）についても児童たちと考えた。

### ③成果と課題

成果としては知床財団や漁協との連携、地域に根ざした職業に携わる方々をゲストティーチャーに招くことにより、専門的な話や資料に触れることができたり、リアルな地域の姿を見る/知る/体感することができたりしたことである。実体験を通じた体験的な学びは児童の興味関心を高めて“地域に目を向ける/向けてみたくなる”上で重要な要素である。

一方、課題としては今後教員の移動などで授業のクオリティを落とさずに、“誰でも”一定水準の内容を保証できるような授業トータルパッケージとしての教材の引き継ぎや共有化が必要になってくることだろう。

変わっていくものと変わらずにあるもの。ことさら自然環境やそこに暮らす人々の営みはその両方を常に内包している。それに対応するように、授業もまた開発や精選が必要になるだろう。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

副読本「知床学」
----------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校ではふるさとキャリア教育の一環としてとらえ、総合的な学習の時間と特別活動で教育課程を位置付けている。総合的な学習の目標に沿った学習を進めるため、毎年見直しを図っている。専門的な外部講師を依頼することにより、専門的な見地の知識・見方を学習することができている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校経営計画にふるさとキャリアの全体計画を載せ、年度初めに本校のユネスコスクールの位置づけについて確認している。また学習内容について、総合的な学習の目的に沿ったものになるように確認した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートを年2回実施し、取組の客観的資料とした。基礎学力の向上と、活用する力の育成で課題が見られた。成果としては『総合的な学習』についてのアンケートで子どもたちが前向きに取り組んでいる結果が表れていた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

小中高一貫ふるさとキャリアサミットに参加し、羅臼町の取り組みを善堂に発表できた。地元の産業、自然について幅広く発表できた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地元漁業協同組合、観光協会、深層水、役場などと連携している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度同様、ふるさとキャリア教育の一環として取り組む。専門的な外部講師を依頼し、より深い学習を進めるとともに、地域とつながり、よさを見つけていく学習とする。

知床学については、「総合的な学習」であることを常に意識し、目標に沿った学習内容とする。

地元の産業、自然、環境など、身近なところからふるさとを見つめるようにするとともに、地理的利点を生かし、フィールドワークも多く取り入れていく。